

竜の子 奨学生

TATSUNOKO NEWSLETTER

創刊号
Nov 2007

その夢は、きっと世界を変えていく。



第2回交流会 東海大学武道館にて



第1回交流会 (第1回奨学金贈呈式)

Contents

- | | | | |
|------------|-------------------------|-------------|--------------------------------|
| P.2 | 一語一会「いいなあ」
寄付者名簿 | P.14 | 今後の行事予定 |
| P.3 | 平成19年度 上半期活動報告 | P.15 | 「竜の子奨学生」刊行にあたって
編集後記 |
| P.4 | 第1回交流会レポート
(贈呈式・祝賀会) | P.16 | Topics
(平成19年度竜の子奨学生31名が決定) |
| P.6 | 奨学生の夢をご紹介します | | |

財団法人 秋元国際奨学財団



「いいなあ」

心に響く音楽など素晴らしいものに出会ったとき、思わず口にするのが「いいなあ」です。美しいもの、感動することにふれたよこびを率直に表現する言葉ですね。ところが、最近ではこの言葉が発音の微妙な変化とともに違った意味で使われていると、作家で教壇にも立つ森まゆみさんはいます。「大学で教えているとこの「いいなあ」という(女子学生の)甘えた発音を毎日何回聞かされることだろう。海外旅行、ブランドのバック、(略)、高い化粧品、そうしたものを手に入れた友人をうらやむときには必ず「いいなあ」である」。

この場合の「いいなあ」は、素直な感動ではなく、他人の幸せを羨む、やっかみの気持ちが中心ですね。第一、その対象となっていることのレベルが大変低い。森さんが「そういう浅い華やかさで満足していて大丈夫か」と不安になるのがよくわかります。

そうしたことが生活に潤いをもたらし、明日への活気のもととなることは否定しません。しかし、生きていくうえでの明確な目標を持たず、そうした目先のことだけが生活の目的となって一生を過ごすとしたら、それはせつかくの1回きりの人生を浪費すること、これまた最近の流行語でいえば、大変「もったいない」ことです。もちろん皆さんはそれぞれ大

変な努力を重ねて来日し、貴重な奨学金を得て勉学に専念しているのですから、こうした世界とは無縁のことと思いますが。

いうまでもなく人生でもっとも大切なことは、皆さんのように高い志を持つとともに、その生涯を通じてまわりの人を本来の意味で「いいなあ」と感動させる生活を送ることだと思います。人生において本当に意味があるのは、どのような形であれ人々の役に立つ、社会に貢献できる生き方を貫くことです。

わたくしたちは、一人だけでは絶対に生きていけません。人々の間で生かされている存在ですから「人間」というわけですが、たとえば電車の中で体の不自由な人に席を譲る、ごみをきちんと分別する、など「人間」としての基礎基本を身につけながら、真に社会の役に立つ人生を目指して羽ばたいていてください。「竜の子奨学生は本当にいいなあ」といわれるように。



理事 ^{かわむら}川村 ^{つねあき}恒明

昭和34年 3月 東北大学法学部卒業。同年、文部省入省。大臣官房審議官・学術国際局長などを歴任。
平成 2年 7月 文化庁長官(平成4年7月まで)
平成13年 6月 財団法人文化財建造物保存技術協会会長(現在に至る)
平成14年 8月 神奈川県立外語短期大学学長(平成19年3月まで)

「一語一会について」

竜の子奨学生にとって、財団関係者からの励ましの言葉は、大変貴重なものです。そして、竜の子奨学生には、その言葉は一生に一度の出会いであると心得て、そこから多くのことを学んでほしいという願いを込めて、このコーナーを「一語一会」と名付けました。

寄付者名簿

- 久保 玲 士 様 (株式会社アルデプロ 代表取締役社長)
- 遠藤 正 博 様 (株式会社アルデプロ 専務取締役)
- 新山 隆 史 様 (株式会社アルデプロ 取締役)
- 高橋 康 夫 様 (株式会社アルデプロ 取締役)
- 岸本 修 治 様 (株式会社アルデプロ 取締役)
- 佐藤 献 一 様 (株式会社アルデプロ 執行役員)
- 倉田 拓 也 様 (株式会社アルデプロ 仙台支店長)
- 中川 光 義 様 (株式会社アルデプロ 大宮支店長)
- 秋元 隆 弥 様 (株式会社アルデプロ プロパティマネジメント 代表取締役社長)
- 田野 倉 淳 様 (株式会社アルデプロ 一般株主)

平成19年度上半期活動報告

●4月26日

文部科学省より、財団設立認可がおりる

●5月30日

第1回理事会・第1回評議員会を開催（於：ヒルトン東京）

- (1) 評議員の選出について [理事会のみ]
- (2) 選考委員の選出について
- (3) 出捐財産の受入れについて
- (4) 奨学金支給規程の制定について
- (5) 選考委員会規程の制定について
- (6) 理事常勤の件
- (7) 平成19年度事業計画および収支予算について
- (8) 平成19年度基本財産の運用について
- (9) 株主権の議決権行使について
- (10) 諸規程（案）について



●5月30日

設立記念祝賀会開催（於：ヒルトン東京）



●5月31日

平成19年度竜の子奨学生の応募書類を指定大学22大学へ発送

●6月30日

平成19年度竜の子奨学生の応募締めきり

●7月18日

平成19年度竜の子奨学生 選考委員会を開催
（於：株式会社アルデプロ本社）
（選考結果の詳細は16ページ）



●8月4日

第2回理事会を開催（於：ヒルトン東京）

- (1) 山下泰裕氏を当財団の評議員として追加で選任する件

●8月4日

第1回交流会開催（於：ヒルトン東京）
第1回奨学金贈呈式・祝賀会



第1回交流会

第1回奨学金贈呈式

平成19年8月4日、ヒルトン東京において、第1回奨学金贈呈式が開催されました。財団役員や選考委員、ご来賓が見守るなか、式は肅々と進められました。式の最後に奨学生代表として、蔡碧月さんが感謝のスピーチをしましたが、そのスピーチの内容に会場の誰もが心を打たれ、感動の輪が広がり、大変印象に残る贈呈式となりました。

奨学生代表挨拶 筑波大学 蔡 碧月（台湾）

5年前、私は本日出席している奨学生の皆さんと同じように、母国のために、日本で習得した高度な知識や技術を大学で教える夢を抱きながら、両親や友達に別れを告げ、海を渡って日本にきました。

しかしながら、いざ始めた日本での留学生活は、現実には経済的にとても厳しいものでした。母国の物価と日本の物価の差が非常に大きくて、私達私費留学生は日本に来て、カルチャーショックを受けると同時に、経済的な困難に直面いたしました。勉強するために多くの時間がほしかったのですが、アルバイトをたくさんしなければ生計が成り立たないので、身体的にも精神的にも本当に疲れました。自分の周りには、経済的な困難が理由で夢をあきらめて、帰国した先輩達が何人もいました。自分はあと1年半で卒業する予定なのですが、今年になって、父が心筋梗塞で倒れてしまったため、母国からの支援が厳しくなり、夢をあきらめる寸前にありましたでした。

そんな時、突然「秋元国際奨学財団の奨学生として採用されました」との知らせを受け、絶望の淵にあった私ですが、希望の光が見えてきました。かつて経験したことの無い感謝と感激を覚えました。そして、必ず留学の目的を達成しようと再度決心しました。

経済的な問題によって留学の目的を達成できない不安の中で暮らしている私達私費留学生に、秋元国際奨学財団は温かい手を差し伸べてくださいました。提供して下さった奨学金は、学費と生活費を同時にカバーできる額で、私



式辞を述べる秋元竜弥理事長

達の最も切実した問題を根本的に解決してくださいました。本当に心より感謝しております。私達は、秋元国際奨学財団の秋元理事長を始め、皆様のご期待に応えられるように、竜の子奨学生としての自覚と責任を持って、学業に専念いたします。また、私達竜の子奨学生は日本と世界を結ぶ架け橋として、活躍していきたいと思えます。

さらに、竜の子奨学生と言う共通の名のもとに結ばれた各国の留学生が、真心を持って、お互いの文化を理解することで、世界平和に貢献していきたいと思えます。竜の子奨学金のおかげで、私達は安心して勉強や研究に専念することができます。今後、竜の子奨学生が、それぞれの専門分野で活躍して、社会に貢献することによって、秋元国際奨学財団に恩返ししたいと思います。

終わりに、再び、竜の子奨学生を、代表いたしまして、秋元理事長を初めとする秋元国際奨学財団の関係者の皆様に、深く、深く、感謝申し上げます。本当にありがとうございました。



挨拶をする蔡 碧月さん



財団役員および選考委員と一緒に記念撮影



● 祝 賀 会 ●

厳粛な雰囲気の中に行われた奨学金贈呈式でしたが、会場をかえて祝賀会が始まると、竜の子奨学生31名は普段通りの様子に戻って親交を深めました。理事の川村恒明様や評議員の大沢啓二様をはじめとして列席した財団関係者やご来賓から、たくさんのお祝いの言葉をかけられ、竜の子奨学生にとって忘れられない一日となりました。



- ① 感激の面持ちで挨拶する秋元竜弥理事長
- ② 心温まる川村恒明理事長からのご祝辞
- ③ 左から孫揚さん（立命館大学）、アズハニ・ピンティ・イスマイルさん（東京工業大学）、曹洋さん（京都大学）
- ④ ユリアハティ・リサさん（京都大学）と秋元理事長
- ⑤ 左から黎婷さん（早稲田大学）、ドン・ティエン・ドゥック君（東京工業大学）、朴性昱君（北海道大学）、ジョシ・サウン君（東京芸術大学）
- ⑥ 左から本江 久美子様（一橋大学留学生課課

- 長補佐）、大沢啓二評議員、木谷誠一選考委員、劉彦平さん（一橋大学）
- ⑦ 左から王小凡さん（九州大学）、穂積康一様（新日本E & Y税理士法人）、余嵐さん（立命館アジア太平洋大学）、藤田昌久理事
- ⑧ 手前左から塩井勝評議員、太田孝昭理事、中村元彦監事
- ⑨ 大沢啓二評議員からの激励と締めのご挨拶
- ⑩ お客様を竜の子奨学生全員でお見送りしました
- ⑪ 最後に奨学金が入金された銀行通帳を受け取りました



平成19年度竜の子奨学生 将来への夢をご紹介します

竜の子奨学生の素顔を知っていただくには、どうすればよいだろうか。素朴ですが、竜の子奨学生一人一人の生の声をお伝えするのが一番良いのではないかと考えて企画いたしました。今回は、8月4日に行われた第一回贈呈式に出席した後で、あらためて、自分の将来への夢、今後どのような学生生活を送りたいか、竜の子奨学生の仲間たちとどのように交流していきたいか、について書いてもらいました。ただ日本語で文章を書くことは、なかなか大変なようで、少々読みにくい文章も散見されますが、それも竜の子奨学生の個性としてご理解いただき、いずれは31名全員の顔を覚えていただくきっかけになれば幸いです。

※アイウエオ順



アズハニビンティイスマイル
AZHANI BINTI ISMAIL
(マレーシア
スランゴール州バンギ)
東京工業大学大学院
理工学研究科 応用化学専攻
修士課程1年



竜の子奨学金を受領して大変うれしく、自分のためだけでなく、家族、母国、そして世界に役立てる人間になるように頑張りたいです。将来、日本で勉強していたことをマレーシアの人々に伝えて、大学の教授になるという夢を持っています。これから、研究や勉強を楽しくやって、日本の様々なところへ遊びに行ったりし、楽しい留学生生活を送りたいです。

また、竜の子奨学生の仲間とよく交流し、他の国の文化や習慣などを学ぶとともに、日本語と英語を上達できるように仲良くなりたいです。

イボンファン
李 範煥
(韓国 ソウル市)
一橋大学大学院
商学研究科
経営学修士コース
修士課程1年



最近、ITなどの発展によって情報がより重要になり、また、社会が便利になってきて人間を介さずに情報が簡単に得られるようになりました。

しかし、いつの時代においても社会活動の基本は人間関係にあり、今後もそれは変わらないでしょう。

今後は大学院で経営のことを勉強しながら、秋元国際奨学財団をきっかけに知り合った人たちと「仲間」になり、各々の専門知識と経験から創生された真の情報を互いに共有できればと思います。

将来、これらの過程を通じて築かれた人的ネットワークが各々が所属している分野、ひいてはグローバル社会の発展につながれば幸いです。

ウエイピョウ
WAI PHYO
(ミャンマー ヤンゴン市)
早稲田大学大学院
情報生産システム研究科
情報生産システム工学専攻
修士課程1年



日本に学んだ事を母国のために役立てて、母国の発展に貢献したいです。

そのため卒業後に日本の会社で3年間ぐらい働きながら社会的なことを学び、日本の会社の経験や早稲田大学で習ったことをしっかり持ち帰れば、母国の発展ができると信じています。

日本で留学する間に、学業だけでなく、日本の文化や習慣や日本語などもっと勉強しようと思っています。秋元国際奨学財団のおかげで、他の国々の人と出会うことがとってもうれしくて、私にとって宝石のような経験だと思っています。

竜の子奨学生の一人として、日本各地の地方交流会に参加できると幸いです。



オウ ショウハン
王小凡
(中国 遼寧省瀋陽市)
九州大学
経済学部 経済工学科4年



この度、竜の子奨学生として採用されたことは、私にとって経済的な支援だけではなく、精神的な激励としても大きいです。今まで、少しでも両親の負担を減らすためにアルバイトと勉強を両立させなければならなかったのが、大変な生活でした。そのため、私の所属しているサークル「九州大学国際親善会」の留学生を支援する活動にほとんど参加できませんでした。

これから、勉強にもっと専念して、サークルの活動にも積極的に参加して、充実した大学生活を送りたいと思っています。秋元国際奨学財団の方々や竜の子奨学生の皆さんとも、ぜひ交流会などの場を借りて、交流を深めて、仲良くしていきたいと思っています。

カク テンテン
郭甜甜
(中国 遼寧省瀋陽市)
東京海洋大学
海洋科学部
海洋生物資源学科2年



私にとって生物の遺伝や進化の謎は何よりも魅力的です。

中国人として生まれ、今は日本で海洋生物のことを勉強しています。修士課程を終えた後は米国圏で博士課程を修得したいと思っています。世界中の生物研究者達と共に、未解決の神秘的な謎を解いたり、新発見に挑戦したり、研究成果を得た時のうれしさを一緒に味わったりすることが夢であります。

竜の子奨学金がもらえる前は、自分の夢は、ずっと遠いところにあるものだと思っていましたが、奨学金がもらえたお陰で、夢が近付いてきたような気がして、勉強がもっと楽しくなりました。

カン ヘイ
韓平
(中国 北京市)
東京電機大学大学院
情報環境学研究所
博士前期課程2年



卒業後中国に帰る予定です。中国北京の日本企業に就職して、日本で学んだ知識を母国での仕事に生かしたいと思っています。

留学生生活の最後の年は、まず卒業研究に力を注ぎたいです。そして、日本各地に旅行し、いっぱい友達をつくり、日本の文化をもっと勉強し、いい思い出となる留学生生活を送りたいです。

竜の子奨学生の仲間たちの出身国の違いによって、それぞれがもつ文化も違うと思います。この機会に、みんながコミュニケーションすれば、異文化をもっと理解することができると思います。

キム スジン
金秀眞
(韓国 京畿道始興市)
立命館アジア太平洋大学
アジア太平洋学部
アジア太平洋学科2年



奨学金の合格確定の前、自分は休学を考えていました。止めるつもりはなかったけど、自分が日本に来た理由も、頑張っている理由も分からなくなっていました。

しかし、今は違います。今の自分は何でもできるという自信に満ちています。今から自分がすべきことは「やりたい!」と思ったことを実践に移すことだと思います。そして、今まで、なおざりにしていた大学の生活も、友達とも、大事に、楽しくやって生きたいです。もちろん、せっかくのきっかけで知り合った竜の子奨学生の仲間もです!!

これからよろしくお願ひします。お互い連絡取りましようね!



キム ソヒ
金 昭希
(韓国 ソウル市)

亜細亜大学
経営学部経営学科4年



私は、将来環境ビジネスをやりたいと思っています。新たな環境ビジネスをたくさん創出し、環境問題の解決に少しでも役立ちたいと思っています。残りの留学生活は環境問題についてもっと深く勉強し、皆さんとの交流も深めたいと思っています。

私は「人は人とともに成長する」と考えているので、人との付き合いを大切にしようとして常に心がけています。竜の子奨学生の方々との交流も大切にしたいし、お互いに刺激し合い、助け合って成長していく関係でありたいと思うので、皆さん、今後とも宜しくお願いします。

キム ビョンギョ
金 秉奎
(韓国 釜山市)

慶應義塾大学
理工学部システムデザイン
工学科2年



地球温暖化問題が世界の注目を浴びている昨今、政治や経済などいかなる分野でも環境問題に気を配らなければならない。特に文明の発達を先導してきた科学技術分野はこれから環境保護と発展の両方を考慮した開発を考えるべきである。従って、私も理工学を学んでいる人の一人として、環境問題を以前から興味があった自動車と関連させて、エコカーの開発研究に取り組みたい。今の大学生活がその基礎を学ぶ時期であるため、日本での留学生生活を無駄にはしていない。

竜の子奨学生の仲間たちと日本で知り合えたことは、大切な縁であると思うので、これから毎月開かれる交流会を通じて皆と仲良くなり、各国との文化交流をしていきたい。

グエン ヒュークワン
NGUYEN HUU QUANG
(ベトナム ハノイ市)

東京大学
工学部都市工学科4年



私の夢は建築家になることです。建築家になって人々の心に残るような建築を創りたいです。この夢を実現するために今は勉強に一生懸命に取り組んで行くしかないと思います。それで、「竜の子奨学生」のメンバーになったことは、私にとって大変に意義のあることです。それはこれから安心して自分の夢に向かって頑張れると思うからです。逆にいうと、「秋元国際奨学財団」から受ける支援を自分の夢の実現のために最大限に活かさなければならないとも思います。

さらに、「竜の子奨学生」のメンバーに成ることによって沢山の友達もできました。私にとって友達は「宝物」なのです。なので、これからはこの機会のできた「宝物」を大切にしていきたいです。

ゴ エンカ
呉 延花
(中国 吉林省延吉市)

東京大学大学院
医学系研究科 社会医学専攻
博士課程2年



この度、第一期竜の子奨学生として採用していただき、貴財団の関係者や奨学生の皆様と出会えて、大変嬉しく思います。これからは経済的な心配をすることなく、勉強と研究に専念できるので、よい成果を出せるように頑張ろうと思います。

また、交流会に積極的に参加させていただき、皆様と専門的なことのみならず、言葉や文化の交流もしていきたいです。

将来は中国政府の CDC (The Center for Disease Control and prevention) または保健所に勤めて、人々の健康向上に貢献するとともに、日中両国国民の相互理解と親善に貢献しようと思います。今後ともよろしく願い申し上げます。



コウ リュウ
向 龍
(中国 四川省成都市)
群馬大学大学院
工学研究科生活工学専攻
博士後期課程3年



アルツハイマー病の祖母と、それを看病する家族の苦しみを見て、治療薬開発の夢を描きました。将来NMRを利用して、病気の原因となる変性蛋白質の構造をターゲットにした医薬品開発の仕事に携わりたいと思っています。

私は、最終学年である博士課程3年生ですので、学位取得などに向けて、より一層研究に励みたいと思います。

また、この秋に参加する学会や就職活動などの様々な場面で良好関係を築いていきたいと思っています。これから竜の子奨学生の皆さんと会報を編集したりするような活動に取り組んで、楽しみを共有していきたいと思っています。

サイ ヘキゲツ
蔡 碧月
(台湾 台北県新莊市)
筑波大学大学院
生命環境科学研究科
生命産業科学専攻
博士後期課程2年



私の夢は廃棄物処理の研究者になり、台湾の大学で環境問題に真剣に向き合う人材を育成することです。今後は実践を踏まえた最先端のごみ処理とリサイクルの技術を学び、台湾の廃棄物問題が解決できるシステムの構築を目標に勉学に励み、またボランティアにも積極的に参加し、多くの人々と触れ合っていきたいと思っています。

秋元国際奨学財団の仲間達と、お互いの国の文化を理解し合い、時には悩みや進路を相談し、励ましあい、お互いの目標に向かって切磋琢磨していきたいと思っています。お互いの国の掛け橋となるように、心の交流をしていきたいと思っています。

シャリハル
夏力哈尔
(中国 新疆ウイグル自治区)
電気通信大学大学院
情報システム学研究科
情報システム運用学専攻
博士後期課程1年



私は2003年の11月、中国の新疆から日本に留学しました。

近年、中国の経済発展に伴い、砂漠化、大気及び水などの汚染が非常に深刻な問題になり、さまざまな社会リスクが増加しています。将来日本で身につけた知識と研究成果を活かして、母国の安全科学 (SAFETY SCIENCE) の向上により、人々が自由で、平和に暮らせる豊かな社会を作るために力を尽くしたい。さらに、日中両国の架け橋の役割をしたいと思っています。

また、アジア地域における相互理解協力のために何をすべきかを考え、竜の子奨学生の皆さんといろんな話題で交流を行って、深い友情を作りたいと思っています。

ジョシ サワン
JOSHI SAWAN
(ネパール ラリトプル郡)
東京芸術大学大学院
音楽研究科 音楽専攻
博士後期課程1年



祖国ネパールでは音楽学という専攻は大学機関にまだ開かれてないので将来的に日本で学んだ音楽学のモデルをネパールで導入する夢を持っています。今現在ネパールの古典音楽に関する研究しておりますが今後の留学生生活は演奏会、研究発表、ワークショップなどの様々な方法でネパールの音楽を日本とともに世界の人々に理解させていきたいです。秋元国際奨学財団のそれぞれのアジア人留学生の仲間たちと一緒にこれから様々な連絡方法でお互いの国の色々な情報を交換していきたいと考えています。



ソウ カイ
曹 嘉懿
(中国 上海市)
東北福祉大学
総合福祉学部
社会福祉学科2年



竜の子奨学金を受領できることになり、普通に生活することができますが、将来、中国と日本の国際交流をするために、資金が必要なので、この奨学金で楽に生活するのではなく、将来のために、今のうちからお金をためて、生活をしていきたいと考えています。

今後、一年間に何度か他の留学生と会うこととなりますが、その時は、お互いの国の文化について話したりして、他の国のこともよく知り、将来に向けて役立てたいです。

ソウ ヨウ
曹 洋
(中国 遼寧省瀋陽市)
京都大学
農学部
食料・環境経済学科3年



私たち31名の竜の子奨学生は、奨学金の贈呈式の日、日本各地から集まってきました。みんなそれぞれ違う経験を持っていますが、様々なことにチャレンジし、涙と汗で前向きに頑張っていると伺います。素晴らしい方ばかりで、楽しく交流ができて、すごくよかったです。

これから2年間の長いお付き合いの中で、みなさんと仲良くするために、まず一人一人の名前と顔を覚え、一人一人に声をかけるのは私の第一の目標です！(^ ^)

親睦を深めると同時に、お互いの留生活の良き相談相手になることを第二の目標とします。さらに、みんなで「三つの豊かさ」を最大な目標として努力し、竜の子奨学生として誇りを持って行動しましょう。

ソン ヨウ
孫 揚
(中国 遼寧省撫順市)
立命館大学
国際関係学部
国際関係学科3年



環境経済学の専門知識を学び、中国の経済発展に伴って新たに発生している環境汚染やエネルギー問題を研究したい。

竜の子奨学生の中で、環境分野を学んでいる方々と研究課題や知識を交換したり、他分野の方々と交流を通じて自分の視野を広げたりしたい。一生の友達になるように、奨学生の交流会や日常連絡を通じて仲良くしたい。

大学で環境問題の研究を頑張っており、竜の子奨学生と積極的に交流し、より有意義な留生活を送りたい。卒業後中国に帰り、日本で学んだ環境経済学の知識を生かせる企業に勤めたい。

チェッタナシャイ カニター
JETANACHAI KANITA
(タイ バンコク)
早稲田大学大学院
国際情報通信研究科
国際情報通信学専攻
修士課程1年



将来、私は経営者になりたいです。そのための経営知識や実践力を養うために日本に留学しました。日本でしばらく仕事をし、一生懸命努力を重ねて、夢を実現させたいと思います。

竜の子奨学金で、大学院の勉強をしっかりとするとともに、日本でいろいろな経験を積みたいです。日本とタイの習慣にはいろいろな違いがありますが、お互いの文化や考え方、生活の仕方などを理解して、日本人と仲良くしたいです。

いろいろな国から来た留学生が日本全国のいたるところにいます。そして様々なバックグラウンドをもった友人がたくさんいることなのでしょう。私は財団のプログラムである、体験研修や合宿、研修旅行などによって、彼らと良いネットワークを作りたいです。竜の子奨学生の仲間と日本文化に触れるとともに異国文化にも触れて、世界を広げたいです。



チン ウンホウ
陳 雲芳
(中国 福建省福清市)
東京外国語大学
外国語学部 日本課程
日本語2年



日本文学を読んで日本に憧れ日本に来ることにした私は、将来日本文学に関する仕事をしたいと思います。それで、東京外国語大学日本語科に入学し、勉強している間に日本の古典文学にも興味を持つようになりましたが、中国では日本の古典文学の翻訳は少ないです。それで、「源氏物語」を中国語に翻訳し、中国人に日本の古典文学を読んでもらうのが私の夢です。今後の学校では、もっと翻訳の勉強に力を入れたいと思います。

秋元国際奨学財団との交流ですが、月一回の交流会のほか、メールのやり取りもよくあったほうが良いと思います。奨学生は、学校の勉強や留学生活の様子を常に財団に報告した方がよいと思います。

ド アン ティエン ドウック
DOAN TIEN DUC
(ベトナム ハタイ省ハドン市)
東京工業大学大学院
イノベーションマネジメント研究科
技術経営専攻 修士課程1年



私は、竜の子奨学金を頂くことで自分の生活はだいぶ変わりました。学費や生活費は十分カバーできることにより、専攻している電子政府とEコマースの研究はしっかりと行えます。さらに、今、所属している日本ベトナム友好協会の色々な活動に積極的に参加することが出来るようになりました。これから、日本とベトナムの文化やビジネスなどの交流を良くさせるために頑張りたいと思っています。

また、秋元国際奨学財団を通じて、アジアから来るたくさんの優秀な友達と出会いましたが、この機会をしっかりと掴んで、皆さんとずっと付き合いたいと思っています。

ド インソン
都 仁仙
(韓国 ソウル市)
東北大学大学院
国際文化研究科
博士課程前期2年



日本に留学して2年経った今、初めて日本に来たときの初心をこの頃の私は忘れていたかもしれない。もう一度、初心に戻す時期であろう。子供の頃から夢であった海外留学が実現され、さらに生活苦も考えず研究に没頭できるようになり、千載一遇のチャンスだと思っている。このチャンスを活かし、日本でのマイノリティ研究を続けていきたい。未だに解決できない、民族、差別、人種の問題について研究してみたい。

秋元国際奨学財団の仲間たちともお互いに理解しあえる本当の意味の仲間として、一期一会の縁をつくって行きたい。

バク ソンウク
朴 性昱
(韓国 ソウル市)
北海道大学大学院
工学研究科人間機械
システムデザイン専攻
修士課程1年



私は今後とも学業に専念したいと思います。特に自分の研究にもっと専念し、多くの学会に参加したいと思います。学会を通じ、自分の研究だけではなく、他人の研究にも興味を持って、柔軟な考え方を学びたいと思います。

そして、将来は自分の専門を生かせる企業に入り、技術者として活躍したいと思います。また、今回、秋元国際奨学財団の仲間となったみなさんとは、今後の交流会を通じ、今まで、または現在の留学生活を話しあいながら、お互いを知り、色々と学んでいきたいと思っています。



ハン ドンヒョン
韓 東賢
(韓国 仁川市)
青山学院大学
経営学部経営学科2年



誰にでも人生において大きなチャンスは何回か訪ねてきます。その時、そのチャンスをいかに生かせるかによって、今後のその人の人生は大きく左右されることでしょう。

現在、日本では大勢の留学生たちがいるが、その中の多くが生活費はもちろん学費まで自分で稼いでいます。そういった意味で竜の子奨学金を頂けたことは私たちにとって大きなチャンスなのではないでしょうか。

私はこのチャンスを生かし、自分の夢に向かってベストを尽くしていき、皆さんとは形だけではない友情深い仲間としてお互い助け合い、財団を卒業した後からも一生の仲間としてやって行きたいと思います。

ヒュン タン プーン
HUYNH THANH PHUONG
(ベトナム ホーチミン市)
立命館アジア太平洋大学大学院
経営管理研究科
経営管理専攻
修士課程1年



私は金融と会計の分野の専門家になりたい。APUで経営管理を勉強しながら、またはCPAという試験を目指して専門的な知識を獲得する。将来は母国で起業し、社会に貢献したい。それから、日本とベトナムとの文化交流経済協力を促進したいと思う。

竜の子奨学金を受領できたので、もっと積極的な留学生生活を送りたい。専門の勉強以外では、語学の勉強にも力を入れたい。日本語、英語、それから中国語を完全に理解できるように勉強を頑張る。サークルでも活発に過ごし、演奏会に参加出来るようにお琴を上手に弾きたい。

最後に、竜の子奨学生の皆さんに仲よくし、一生の友達になっていきたい。皆さんから、たくさんのことを学べるように交流していきたい。

ブ ショウヨク
武 霄翌
(中国 北京市)
日本大学
商学部 経営学科2年



日本での大学生活を通じて、日本の社会の仕組みや文化などを理解し、更なるグローバルな視野を身につけたい。将来は総合商社や大手メーカーなどに就職し、昔から一衣帯水の関係である日本と中国の間で、日中友好の掛け橋として、可能な限り、自分の力を発揮して、自分が日本と中国の隔たりを少しでも解消できたらいいなと考えております。

また、秋元国際奨学財団の交流会を通じて、各国からの留学生と交流することにより、友の輪を更に広げたら、何より嬉しいことだと考えております。

ユリア ハティ リサ
YULIAHATIE LISA
(インドネシア セラン市)
京都大学大学院
アジア・アフリカ地域研究研究科
東南アジア地域研究専攻
博士課程2年



これまで私は、私費留学生という経済的な理由のみならず、毎日の学校やアルバイトのハードなスケジュールに追われていたため、居住しているところ近辺以外は、日本国内の他の地域に行く機会は非常に少なかった。

これからは大学で学問を学ぶのは当然なことです。日本の文化や生活様式をより理解するために様々な地域を訪ね、学外の社会見学を増やしたいと考えています。これらは日本にいるときしか経験できないこともあります。それより大事なことは日本に生活している自分は日本について、どこまで理解しているかを知ることだと思います。これは日本に留学している一人のインドネシア人として、そして竜の子奨学生として、今後日本の正確な情報を母国の人々に伝えていくことが私の責務でもありと考えているからです。



ヨウ ラン
余 嵐
(中国 上海市)

立命館アジア太平洋大学
アジア太平洋マネジメント学部
アジア太平洋マネジメント学科3年



日本に留学しに来て、あっという間にもう三年経ちました。

もう四年生になった私にとって、今一番考えている事は、就職することです。私はどうしても日本で就職したいのです。そしてお金を貯め、将来は多くの人に元気や楽しさを与えられる暖かいお店を、日本で経営することが私の夢です。そして私を支えてくれた全ての人に恩返しをしたいです。

そのために大学生活の最後の1年間を大切にし、日本で就職できるようにもっと勉強したいです。また、卒業するまでにいろいろな国に足を運び、自分の目で世界を見てみたいです。

秋元国際奨学財団では、積極的に毎月の交流会に参加し、私とは違った経験をしている皆と交流することで、視野を広げたいと思います。

リ ティン
黎 婷
(中国 北京市)

早稲田大学大学院
アジア太平洋研究科
国際関係学専攻
博士後期課程1年



皆さんは囲碁というゲームをご存知でしょうか。囲碁は四千年以上の長い歴史を持ち、今では世界中に競技人口が広がっています。その奥深さは単なるゲームの域を超え、もはや文化と言える程の存在になっています。

私は故郷の北京で、幼い頃から囲碁の世界で生きてきました。プロ棋士を志望する人達と共に修行の日々を送ったのです。現在はこの経験を生かし、「文化としての囲碁」を研究しています。

私の夢は囲碁をツールにして、国家や民族、宗教の壁を超えた国際相互理解を深めることです。

興味のある方、一緒に囲碁を楽しみませんか？

リュウ ケンベイ
劉 彦平
(中国 山東省泰安市)

一橋大学大学院
国際・公共政策教育部
国際・公共政策専攻
修士課程2年



今年の4月から奨学金がきれて、実家からの仕送りもなく、8月までの4ヶ月間で、改めて研究とアルバイトの両立の大変さを深く感じました。その一番辛い時期に、秋元国際奨学財団から合格の通知を頂き、喜びと感謝の気持ちが言葉で表現できないほど嬉しかったです。これからの学生生活は研究に励みながら、少しでも地方への旅に行きたく、それを通じて日本への理解を深めればと思います。御財団が竜の子奨学金を実施する理念や目的、それとアルデプロ自身の経営理念などにすごく感動し、共感を覚えています。そこで、御財団の強い影響の下で、将来、世界の平和・日中の友好のために、力を尽くしたいと思います。経済力が許される限り、同じく経済的に困っている学生達に支援の手を差し上げたいというように考えています。

リュウ チボン
劉 知凡
(中国 遼寧省大連市)

東京大学
教養学部理科一類2年



日本に来てから、いろいろな刺激を受けまして、知識の面だけではなく、考え方と価値観も大きく変わりました。中国にいた頃よりももっと客観的に周りを見ることができるようになりました。自分の将来のために、日本だけではなく、ほかの国にも行ってみたいと思います。

昔は生活費を稼ぐために、あんまりこのことを考える暇はなかったですが、いまは竜の子奨学金をいただきまして、すこし生活の余裕ができましたので、英語を強化して、休みの間にいろんな国を回ってみたいと思います。もし機会があれば、英語圏の国の大学院に入りたいと思います。

今後の行事予定

●平成19年10月19日（金）
～20日（土）

- 第2回交流会**
- 第1日目** 箱根観光（大涌谷・芦ノ湖・箱根関所など）
懇親会（ホテル南風荘）
- 第2日目** 柔道体験（東海大学武道館）
デモンストレーション（井上康生選手、塚田真希選手）
講演会（講師 山下泰裕評議員）
柔道指導
昼食会

●平成19年12月8日（土）

- 第3回交流会**
- 13:00～ プロ野球マスターズリーグ観戦
東京ドリームス vs 名古屋80D'sers（横浜スタジアム）
- 16:00～ 講演会（講師 大沢啓二評議員）
会場 横浜中華街 華勝楼（かしょうろう）
- 17:00～ 懇親会 同会場にて



大沢啓二評議員



東京ドリームス



名古屋80D'sers

●平成19年12月下旬

平成20年度竜の子奨学生 募集要項発送開始

●平成20年2月下旬

平成20年度竜の子奨学生 応募締め切り

●平成20年3月上旬

平成20年度竜の子奨学生 選考委員会
（会場は株式会社アルデプロ本社を予定）

●平成20年3月中旬

- 第3回理事会・第2回評議員会**
議案 平成20年度事業計画及び収支予算について他（会場未定）
- 第4回交流会**
第1回財団卒業式（会場未定）



「竜の子奨学生」刊行にあたって

このたび、当財団をご支援していただいている皆さまへ、財団の活動内容や交流会の様子などをお伝えするために、会報「竜の子奨学生」を定期的に刊行していくことになりました。今後は、年2回を目処に発行していきたいと考えておりますが、次号以降は、竜の子奨学生の手によって企画編集をしてもらう予定です。

奨学生が自ら創り上げることで、より身近でわかりやすい会報として、みなさまにお届けできるものと考えております。そして、このような広報活動を展開していくことで、日本に留学している私費留学生の実情を広く理解していただき、ひいては、ひとりでも多く当財団への支援者が増えてくれれば、これに勝る喜びはありません。

また、この「竜の子奨学生」創刊号の発行にあたっては、理事の川村恒明先生には、大変ご多忙のところ、財団事務局の無理なお願

いを快くお引き受けいただき、竜の子奨学生にとって心温まる内容の寄稿文をいただきました。本当にありがとうございました。

これからも、皆さまに支えていただきながら、「竜の子奨学生」を発行して参りますので、忌憚のないご意見をお寄せいただければ幸いです。引き続きご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。



財団法人 秋元国際奨学財団
理事長 秋元 竜弥



編集後記



常務理事

廣田 知朗

ようやく会報創刊号を出すことができました。とは言っても、企画編集のレベルは、まだまだヨチヨチ歩きの段階。これからも、当財団をご支援いただく皆様方にアドバイスをいただかなければ、より良い会報に成長させていくことは有り得ないと考えています。

いつでも、編集方針についてのご意見をお寄せいただき、時には厳しいご指摘をしていただければ幸いです。竜の子奨学生の未来と、国際交流の深化による世界平和実現のために頑張りマス！

事務局

古山 扶美子

当財団の設立から半年が経ちました。私自身は8月より当財団のスタッフとして従事しております。竜の子奨学生の皆さんとは同年代ということもあり、話しかけやすい反面、頼りない部分もあるかと思いますが、なるべく多くの方々に当財団の活動を知って頂き、より充実した留学生支援を提供できますよう、尽力して参りたいと考えております。

今後も、どうか暖かいご支援をよろしくお願いいたします。

平成19年度（第1期）竜の子奨学生 31名が決定

平成19年7月18日に、第1回選考委員会が開催され、全国22大学の58名の応募者の中から、中国・韓国・ベトナム・インドネシア・タイ・台湾・ネパール・マレーシア・ミャンマーのアジア9カ国の31名の留学生が、第1期竜の子奨学生として選出されました。

平成19年度 財団法人秋元国際奨学財団「竜の子奨学生」の大学別採用学生数一覧

大学名	採用学生数	採用学生数の内訳												男女別				
		課程別			国・地域別									男	女			
		学部	修士	博士	中国	韓国	ベトナム	インドネシア	タイ	台湾	ネパール	マレーシア	ミャンマー					
北海道大学	1		1			1										1		
東北大学	1		1				1											1
東北福祉大学	1	1			1													1
群馬大学	1			1	1													1
筑波大学	1			1						1								1
青山学院大学	1	1					1									1		
亜細亜大学	1	1					1											1
慶應義塾大学	1	1					1									1		
電気通信大学	1			1	1											1		
東京大学	3	2		1	2		1									2	1	
東京外国語大学	1	1			1													1
東京海洋大学	1	1			1													1
東京芸術大学	1			1							1					1		
東京工業大学	2		2				1					1				1	1	
東京電機大学	1		1		1													1
日本大学	1	1			1											1		
一橋大学	2		2		1	1										1	1	
早稲田大学	3		2	1	1				1				1			1	2	
京都大学	2	1		1	1			1										2
立命館大学	1	1			1													1
九州大学	1	1			1													1
立命館アジア太平洋大学	3	2	1		1	1	1		1									3
合計	31	14	10	7	15	7	3	1	1	1	1	1	1	1		11	20	

(注) 博士前期は「修士」欄に、博士後期および一貫制博士は「博士」欄を含む



Akimoto Tatsunoko
International Scholarship Foundation

財団法人秋元国際奨学財団

<http://www.tatsunoko.jp>